令和４年度　国語科　授業改善推進プラン

大田区立大森第四中学校

１　前年度の授業改善推進プランの検証

取組における成果と課題 　本校においては、漢字の読み書きや文法などの言語事項の学習を課題としている。その中でも、漢字の書き・読み取りが、これまで他の領域に比べて正答率が低い傾向であった。対策として、授業の中で漢字の学習に力を入れてきた。その結果、全学年で正答率が目標値に達していた。漢字や文法の知識を定着させられるよう、さらに継続して指導していく。

２　国語科における調査結果の分析

内容別正答率	＜第１学年＞　全領域で、正答率は区平均を上回った。 ＜第２学年＞　全体的に目標値を上回っている。「文法・語句に関する知識」に関する事項の問題における正答率が低く、目標値を下回った。 ＜第３学年＞　全体的に目標値を上回っている。「話の内容を聞き取る」に関する事項の問題における正答率が低く、目標値を下回った。
観点別正答率	＜第１学年＞　３観点のどの項目でも目標値を上回った。 ＜第２学年＞　３観点のどの項目でも目標値を上回った。 ＜第３学年＞　３観点のどの項目でも目標値を上回った。
領域別正答率	＜第１学年＞　６つのどの項目でも目標値を上回った。 ＜第２学年＞「言葉の特徴や使い方に関する事項」について目標値に届いてはいるが正答率がやや低い。 ＜第３学年＞「我が国の言語文化に関する事項」の正答率が低い。

３　調査結果に基づいた授業改善のポイント

＜第１学年＞	話の内容を聞き取ることがやや苦手なため、「話すこと・聞くこと」について学力向上を図るために、聞き取りテストやプレゼン活動の際の聞く活動を重視して行なう。 漢字の読み書きの能力や語彙力を育成するために、漢字練習の際には類義語や対義語など、派生して周辺の語句にも触れさせる学習を日々行う。
＜第２学年＞	漢字の知識が不十分であり、「書き」と比較して「読み」が弱いため、授業時に取り入れる。訓読み・音読みの発展的な学習や類義語や対義語など派生的な言葉も理解させていく。 文法・語句の知識についても継続的に指導していく。
＜第３学年＞	文学的文章の読解よりも説明的な文章の読解の方が弱いので、文章の構成や論理的な文章の成り立ちについて指導する。実際に自ら論理的な文章を書くことも行う。 漢字の読みの能力や語彙力をさらに高めるために、同音異義語などをまとまりとして理解させる。